

胸上

～二要素融合の美しい祭祀遺跡～

資料
番号

K7

初版：2025.10.31

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス



1. おすすめポイント

★二つの要素が不思議な融合を見せる磐座

まず陽石のリアリティーに圧倒されます。
その原初的な表情と「大権現」石柱を中心とした
石組はちょっとミスマッチな感は受けつつも
全体として美しく整った磐座です
麓住民「自慢」の場なのではないでしょうか

2. 説明

筆者が本磐座を知るきっかけを頂いた八木敏乗氏の書籍（参考文献 1, p 135～136）から解説文をそのまま引用させて頂きます。

胸 上

玉野市胸上地内

胸上は児島半島のほぼ東南端にあつてすぐ西から出崎半島が南へ長く二嶺ばかり張り出し、その周辺地域には、直島諸島が広く点在し、この付近は島の多い地勢の海である。

西北方向に児島最高の霊峰、金甲山、そして後背に貝殻山を負い、西南に出先半島、その南海上の石島は、先土器、縄文、弥生、以降各期の遺跡と包含地のあることで名の知れた所でもあり、又この地は神功皇后が三韓からの帰途、立ち寄られた伝承の地として、古くより住民の定着がなされ、早くから拓け、深い歴史の足跡を刻み残した土地がある。

この胸上部落の北東に、瑜伽山と呼ばれる山（二〇四m）があり、この頂に瑜伽大権現が現在祭られている。社の背後に巨石群があつてこれが、この社の元宮（磐座）とされ、古代からの神位の座と推考されている。

程の支石形の組み石など、この周辺には、相接して、以上の祭祀遺跡の分布が見られ、この地

この神座の特徴は、他の神座に比較して、構築された時期が古い時代に造られた形式を示していること、磐座を構成する巨石の数が多く、と、現、神座が、同一時期に造られたものではなく、後年組み石の後補が行われて、現状の成形を見たものと考えられる。

この神座は、一見外観上一体と見られるが、神座に向かつて左手の陽石を中心とした組み石は古く、瑜伽大権現を表刻した石柱とその台石の一群は、後補されて現在の成形を見たものである。

祭祀の遺跡は個々、その造形には個性があり、一つとして同一形のものが無い中で、県内の遺跡にあつてこの遺跡の形式例は少なく、珍しい造形を示しており、この形式の原初的で、しかも素朴な表現は、遺跡が構築された時期の古いことを示している。

左後背に聳える金甲山頂の神座、あるいは隣接する東の番田の鉾立石、また西、出崎半島中

域には古くから、深い精神生活を顕示した集落が営まれていた事を示している。



3-1

山の頂まで登ると神社の入口の構えが現れます



3-2

かつては社殿があったのでしょうか
石組の基壇があります



3-3

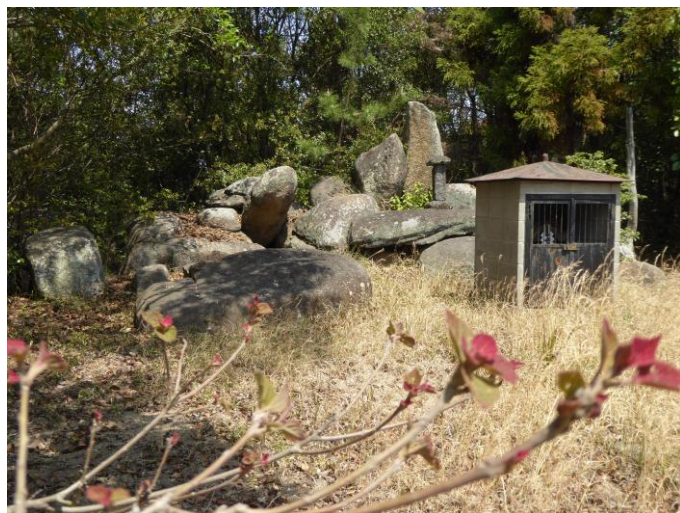
基壇の一番奥に祠があり、その背後に磐座があります



3-4 2頁の八木氏解説によれば左側の陽石を中心とした石組は古く、右側の石組（大権現の石柱など）は後補されたものではないかとのこと



3-5 大権現の石組

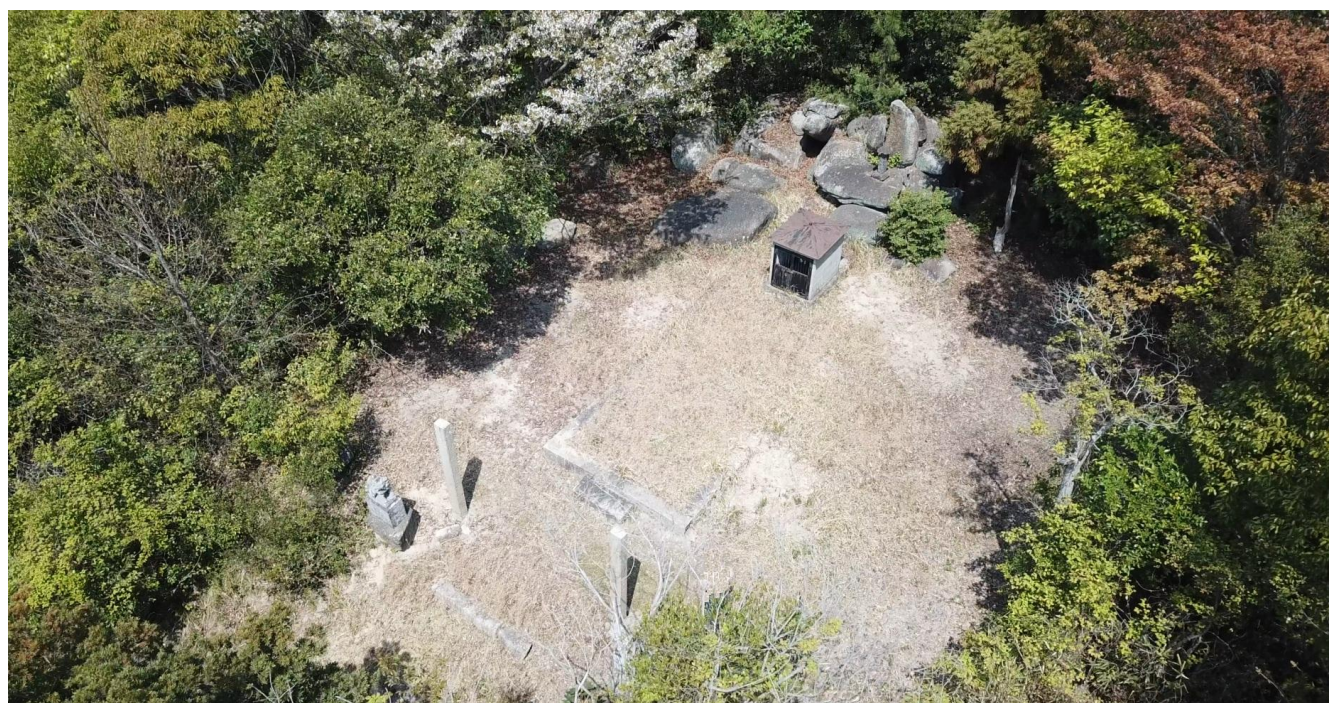


3-6 やや離れた所から全体を見る

4. 「鳥の目」で



4-1 北北東方向 遠くには鉾立岩が望めます



4-2 施設の全景

5. アクセス



5-1

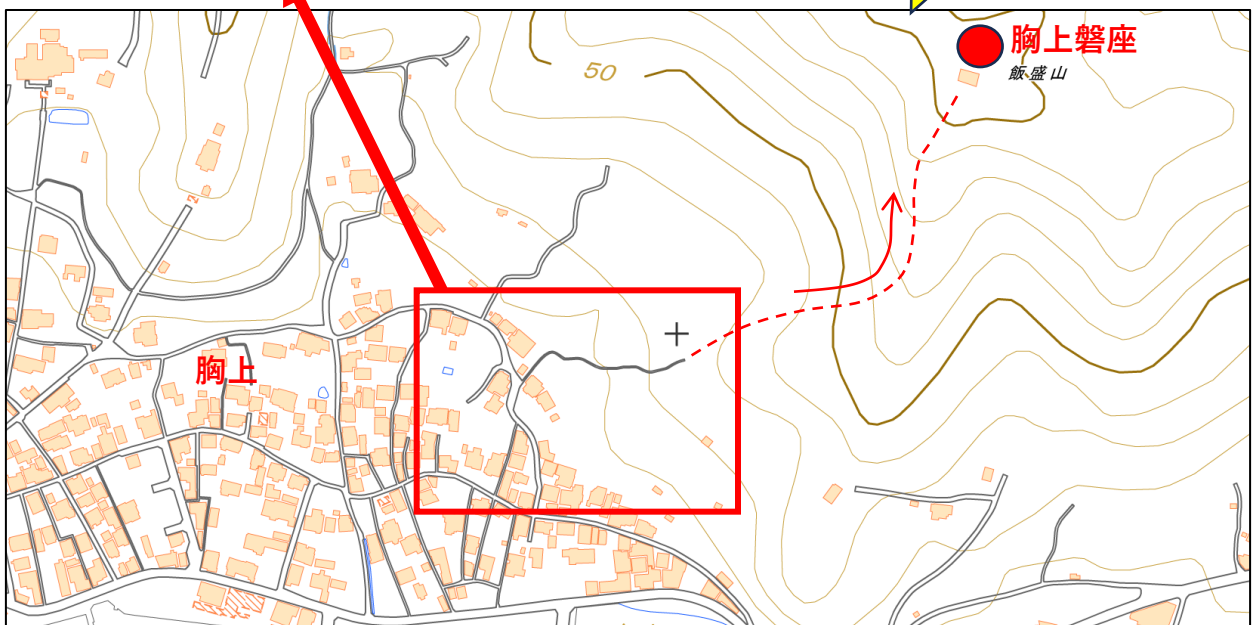
Google Mapに黄で追記



5-2



5-3



地理院地図に赤で追記

5-4

参考文献

- 1) 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, 173p.